

# 苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 12 回 定例委員会
日時	平成29年11月17日 自 15時00分 至 15時58分
場所	市役所第2庁舎2階南会議室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫
欠席委員	
会議録署名委員	上原 毅 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 前田 亜矢子
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 口 朋 史 教 育 部 参 事 丹 野 靖 彦 総 務 企 画 課 長 釜 田 直 樹 施 設 課 長 山 地 吉 明 学 校 教 育 課 長 斎 藤 貴 志 生 涯 学 習 課 長 鍛 冶 貴 宏 第2学校給食共同調理場長 宮 嶋 和 久 総 務 企 画 課 長 補 佐 千 葉 暢 総 務 企 画 課 主 事 前 田 亜 矢 子
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（和野教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（上原毅委員）
3 会議録の承認
（和野教育長） 第11回定例教育委員会（平成29年10月27日開催）の会議録
につきまして、2ページ目の「3 会議録の承認」において、「第9回定例教育委員
会」の表記を「第10回定例教育委員会」に訂正させていただきたいと思いを。他
に訂正はございませんが、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録の一部を訂正のうえ承認-
4 教育長の報告
（和野教育長） 本日は、午前中に植苗小中学校、午後から青翔中学校を訪問いた
きありがとうございました。学校のお話の中でも何点かご指摘をいただきましたが、
これからもお気付きの点がございましたら、ご指摘をいただきたいと思いを。
10月29日の定例教育委員会以降の事業などについて報告いたします。
はじめに、10月25日に第58回苦小牧市PTA連合会研究大会が、約300名
の参加により文化会館及び市民会館を会場として盛大に開催されました。今回は胆振
東部との合同開催でしたが、昨年より50名ほど少ない規模でありました。
参加者は各分科会に分かれて、日頃のPTAとしての活動などを発表して協議し、

情報の共有を図っておられました。今回の研究大会の成果が、各学校のPTA活動に広がることを期待するところであります。

一方で、PTA活動が理解を得られず縮小していくことを危惧しているところであります。学校経営は学校職員だけでは完結しない時代であり、保護者や地域の力を得ながら取組を深めていく必要があり、参加者の減少が活動の縮小とつながっているのではと心配しているところであります。また、各部会のアドバイザーとして、校長先生をはじめ多くの教諭が参加しておりましたが、学校現場の実情を伝え、悩みを伝える貴重な場として、今後も活用を期待しているところであります。

10月26日から11月2日にかけて、私の業務日程の合間を縫って平成29年度の学校管理職の面接を実施しております。変則的な日程と短い時間での面接でありましたが、子供たちや先生の様子を知ることができる貴重な機会でもあります。同時に、次年度に向けた人事配置の検討を始めることとなります。

文化事業では、11月3日に文化賞・文化奨励賞の表彰式を開催し、藤沢礼央様に文化奨励賞を授与しました。各委員にも出席をいただきありがとうございました。若い芸術家であります。人柄がにじみ出るご挨拶をいただきました。今後の世界的な活躍が楽しみな若者であります。

前後しますが、11月1日には市政功労・自治貢献者表彰が行われ、教育関係では学校歯科医の上田修市先生、山崎次之先生が受賞しております。歯科医師の皆様には、本市の取組である小学生のフッ化物洗口に歯科医師会とともにお力添えをいただき、事業を安定的に進めることができていると感謝しているところであります。

次に、委員の皆様にも分担して視察いただきましたが、11月8日に教育研究会研究大会が開催されました。視察時間が限られており、駆け足での視察でありましたが、教職員の各分野での研究成果を最終的には子供たちのために、今後の教育活動に生かしていただきたいと期待するところであります。

11月8日には、第40回高齢者主張発表会が開催されました。発表会開催には、老人クラブ連合会の瀬戸会長をはじめ、各老人クラブの皆様のお力添えをいただい

<p>おります。発表では、柏木町の林隆光さんの「我々も希望と目標を」のほか、8名の方にこれまでの経験を基に次世代へのメッセージを堂々と発表していただきました。</p>
<p>また、苫小牧民報社編集局長の川村様には、ご講評をいただいております。</p>
<p>次に、12月定例会市議会についてであります。11月29日が召集告示で、同日の議案説明会において提出議案や補正予算案の概要について議員説明を行います。</p>
<p>今回の定例会教育委員会に提案しております補正予算案も、教育委員会でご承認をいただいた後、市長が議案として市議会に送付することになっております。補正予算については、別途担当から説明させていただきます。</p>
<p>今回の議会日程は、12月7日に開会し、7日から12日までが一般質問、13日が文教経済の常任委員会、15日に閉会の予定であります。</p>
<p>最後になりますが、冬を迎えインフルエンザの流行が心配な季節であります。10月末に学級閉鎖があり、その後については大きな感染は報告されておりましたが、室蘭市や千歳市で感染の拡大が進んでいるとの報道もあり、児童生徒や教職員への注意喚起や健康管理について、併せて、成績処理の時期となりますので、作業点検を含めて個人情報管理にも配慮し、生徒の進路指導等に万全を期し、落ち着いた環境で年末を迎えるよう、緊張感を持って学校経営に励んでいただきたいと先の定例校長会議で挨拶しております。</p>
<p>以上で、報告を終わります。本日のご審議よろしくお願いいたします。</p>
<p>ただ今の報告につきまして、何か質問等はございますか。</p>
<p>(上原委員) 1点だけなのですが、教育長から報告がありましたように、インフルエンザの時期になりました。マスコミ等を通して、インフルエンザのワクチンが非常に少ないというような報道がある訳ですが、例えば、児童・生徒を含めた学校現場でワクチンが足りなくなるといったような傾向はないのかどうか、教えていただきたいと思います。</p>
<p>(和野教育長) 具体的には報告は受けておりませんし、学校現場からもそのような情報は入っておりません。恐らく、12月の初め頃には平年どおりの在庫量に戻ると</p>

いう報道もありますので、学校現場としてはまだ子供たちが接種できないといった状況にはなっていないのではないかと考えております。

(上原委員) わかりました。

(和野教育長) 他にございますか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

### 第1号 全国学力・学習状況調査経年分析による評価について

(教育部参事) -全国学力・学習状況調査経年分析による評価について説明-

(和野教育長) 質疑に付します。

(佐藤守委員) 細かいところなのですが、4ページの小学校の質問事項のうち、「昼食」というのは「朝食」の間違いでしょうか。

(教育部参事) はい、訂正いたします。

(佐藤守委員) 「改善状況欄」が空欄のところは何か所かあるのですが、例えば、13ページの「算数科でTT指導を実施」や、16ページの「地域や社会を良くする為に何をすべきか考えさせる学習」で両方数字が入っていないのは、以前はやっていなかったからということよろしいでしょうか。

(教育部参事) はい、その通りです。

(佐藤守委員) 続きまして、図書館の関係で、中学生になると図書館の利用率が低いということで、課題の中にもあったのですが、学校質問紙の中でも、計画的に子供たちに授業を行っていないというところが一番の問題かなと思います。せっかく小学校で定着していた図書館の利用や授業が中学校で途絶えてしまうというのは残念です

し、良い図書館があるので、その辺を重点的にやっていただきたいと思いましたが、少し言わせていただきました。

(教育部参事) まず、記載されていない「算数科でT T指導を実施」というところですが、マイナスになっていることについて、T T指導が減ったというふうに捉える課題なのですが、これはチーム・ティーチングから少人数指導に移行したので、何と書けば良いのかというところで、何も書かずに出してしまいました。説明不足で申し訳ございません。減ってはいますが課題ということではなく、別なものに変わったという状況でございます。

それから、今ご指摘のありました中学校の図書館利用の低さはこの分析の中でも明らかになっていますが、学校で指導していくことは、なかなか子供への質問紙調査の中でも反映されてこないという状況でございますので、やはり授業の中で活用することが必要だということで、次年度以降はその辺の取組を強化したいというふうに考えているところです。

(佐藤守委員) わかりました。次に、21ページの課題4「地域行事への参加や地域や社会への関心が低い状況にある。」というところだったのですが、今日青翔中学校へ行って、町内会からお願いされて行事に出すのではなく、中学校から積極的に各町内会の行事に参加させているということで、町内会からも大変好評を得ているという話がありましたので、ぜひそういった事例を各中学校区へ知らせていただいて、町内会には大変喜ばしいことだと思いますので、その辺を課題か何かのところに入れていただきたいなと思います。

(和野教育長) 今回の件については、個人的には肯定的意見の率がもう少し高いような気持ちでいました。結果としてあまり出ていませんが、各学校の取組を聞いていると、かなり町内会にかかわっていると思っていました。ご指摘の点につきましては、校長会などに提出したいと思えます。

(植木委員) 16ページの成果のところ、「①授業中の態度・意欲等」ということで、「小学校・中学校ともに『熱意を持って勉強している』割合が増加しており、

<p>ともに90%を超えている」というところまでは良いですよ。その後に「また、授業中の私語の少なさも改善傾向にあり」と書いてありますが、この少なさというのは、「少ないのが良くなっていった」という意味だと思うのですが、それを言うのであれば「私語も改善傾向にある」と書けば充分ではないかなと思うのですが、ご検討いただければと思います。それと、20ページの課題2の四角形で囲まれているところなのですが、「主体的な学びをより進めるためには、その教科の特質を好きになることが意欲向上につながる必要がある」とあります。ここで言いたいことは、恐らく「その教科の特質を好きにさせることによって意欲向上につなげる必要がある」といった文言に変えた方が、読む人にとっては理解が深まるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。</p>
<p>(教育部参事) わかりました。</p>
<p>(和野教育長) 他にございますか。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 聞き逃したのかも知れませんが、24ページの「苫小牧市学校教育力向上エリア会議」の回数について、年度で開催するのか学期で開催するのか、決めていらっしゃるのであれば教えていただきたいです。</p>
<p>(教育部参事) 苫小牧市全体で行っているものとしましては、年度で3回実施しています。年度初めと、年度途中の研修、これは年度途中に各エリアの活動状況や課題状況を共有して年度末を待たずに改善を図っていくということで実施し、最後に反省という形で年度末に報告を行っています。各エリアにおいてはもう少し多い回数で、エリアごとに実施しています。</p>
<p>(佐藤郁子委員) エリアごとの実施もあるということですね。</p>
<p>(教育部参事) はい。</p>
<p>(佐藤郁子委員) わかりました、ありがとうございます。</p>
<p>(上原委員) 2点お伺いしたいと思います。まず1つは、これは全国的な調査だと思いましたが、このように資料にして経年分析の評価を公表する訳ですが、この書式は、全国的にこのような書式で公表しなさいということで決められているのかどうか、お</p>

伺いたします。
(教育部参事) 10年間を追って公表しているというところは、実はほとんどございません。文部科学省でも、毎年前年度との比較というのは出るのですが、10年間をまとめてというのは今のところ出されていない状況でして、書式がある訳ではございません。
(上原委員) わかりました。次に、10年間にわたっての経年変化を比較している訳ですが、単純に見ると平成19年と平成29年とを比べている訳で、その間の期間の内容が良くわかりません。文章的には、例えば学力の関係で3ページに「経年変化で、小学校中学校ともに、平成24年度から特に上昇率が大きくなっている」とある訳ですが、よりわかりやすく捉えるためには、10年間を年度別にグラフで示すなど、そのようにした方がどの時期でどのように変化をしたのかということがわかりやすいような気がするのですが、そういった示し方というのは考えられないのでしょうか。
(教育部参事) 学力の部分につきましては、特に10年間の変化をグラフにした方がわかりやすいというのは、ご指摘のとおりだと思います。公表の前には、そのようなグラフを入れる方向でも検討したいと思います。
(上原委員) 学力の関係はそういうことでやってみようということですので、それはわかりましたが、他の調査項目、これも10年間やっている訳で、それについては特に年度ごとにグラフで示すとか、そのようなものは必要ないというふうに考えていらっしゃるのでしょうか。
(教育部参事) グラフで表した方がわかりやすい状況だということは承知しておりますが、質問項目数が小学校だけでも77項目ございまして、小学校・中学校と学校質問紙の全てを合わせますと300項目近くなるものですから、それをグラフにすると膨大な量になるということもございまして、この部分につきましては、今回はあえて数値で表記するという形をとらせていただきました。
(上原委員) わかりました。
(和野教育長) これがベースとなる基礎値というふうに考えていただきたいと思い



ます。グラフの表現も、10年間を横棒にするとかなりのサイズになります。例えば、3年おきとか5年おきとか、中を取って3点でとか、いろいろな工夫をさせていただいて、全体の流れが見えるような形にしたいと思います。

もちろん、年度によって上げ下げはありますから、下がったり上がったりしながら右肩上がりで進んでいるということ、この文章では表現させていただきました。また、項目につきましても表現できるものは表現させたいと思いますし、77項目全部ではなくて、その中で特に取り上げた方が良く思われるようなところを、工夫して出したいと思います。

(上原委員) そうですね。社会情勢の変化等もあるでしょうから、いろいろな要因が絡んでいる可能性がありますので、そういう面からいくと、年度ごとにそのような形で表現された方がよりわかりやすいかなと思いましたが、その点についてお聞きしました。

もう1点、24ページの「⑥その他」についての改善方策の3番目なのですが、先ほど説明がありましたように「苫小牧スタイルの小・中学校間や地域との連携の在り方のモデルを示していく」と書いてあります。モデルを示す訳ですので、恐らく新しい形ではないかなと思うのですが、そのモデルについて、今の時点でどのような形で想定されているのか、この点を教えていただきたいと思います。

(教育部参事) この部分につきましては、小中連携・一貫教育の在り方について教育委員会内部でいろいろと検討している中ではございますが、まずは現在苫小牧市で進めております「苫小牧市学校教育力向上エリア会議」という中学校区を基本とした連携の組織がございますので、この組織を基にして、さまざまなマンパワーをどのように活用していくかというやり方について、モデルを示すことができたかと考えている段階でございます。

(上原委員) そうすると、いろいろな形が考えられるということだと思っておりますが、先ほども質問があったように、今日青翔中学校に行ってきたして、地域との連携の方法や在り方等について少しお話をお聞きしてきました。地域が非常に好意的な場合と

か、あるいは学校側から積極的に地域に働きかけを行うとか、いろいろなお話が出ましたので、そういう点からいくと、学校側からの働きかけも非常に大事なような気がします。学校側からとなると、先生方が大変かなとも思いますが、恐らく、地域の方ではそれ程非協力的なことはないのではないかと思いますので、できるだけ学校側、あるいは教育委員会側からもいろいろなアクションを起こされた方が良いのではないかなという気がしたものですから、そのようなこともお聞きしました。以上です。

(和野教育長) 要望というか、考え方の整理ということでお聞きしておきます。他に質問等はございませんか。

(一同「なし」の声)

(和野教育長) それでは、若干修正を加えた上で原案どおり決定をすることとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

-原案どおり決定-

#### 議案第2号 平成29年度教育費等補正予算について

(教育部次長) -平成29年度教育費等補正予算について説明-

(和野教育長) 質疑に付します。

(佐藤守委員) 毎回そうなのですが、Wi-Fiにしてもトイレにしても、東地区から始まって順次西の方へ向かっていくという話になります。こうなると、西地区の方はいつ頃までにできるのかというのがよく聞かれる話なので、その辺の具体的な計

画がわかっているならば教えていただきたいと思います。

それから、Wi-Fiが整備されるということで、小中学校では子供たちは携帯電話等を持ち込めないことになっているとは思いますが、Wi-Fi環境に入ればどなたでも使えるようになっているような気がするので、その辺の対策がもしあれば、教えていただきたいと思います。

(総務企画課長補佐) 1つ目の、その他の地区の計画につきましては、平成31年度までの3か年である程度の学校へ配備をしたいと考えておまして、平成30年度及び31年度に、内訳についてはこれから検討するところではございますが、その他の地区の学校につきましても配備の予算付けをしていきたいと考えております。

それから、小中学生のスマートフォンや携帯電話でのWi-Fiの使用についてなのですが、普段におきましては、基本的に小中学生や近隣住民の方や教職員が私物のスマートフォンや携帯電話では接続できない形になっております。学習用として今後配備することが計画としてありますが、学習用として登録したパソコンのみつながるような仕組みで、教育に利用したいと考えております。災害時におきましては、一般の方や小中学生がもし学校に端末を持ち込んでいれば接続できる形にはなりますが、インターネットにはいろいろと有害な情報もありますことから、そういった有害な情報を提供するようなウェブサイトについてはブロックをかけるといった対策を考えております。

(佐藤守委員) わかりました。

(和野教育長) 他にございますか。

(上原委員) 補正予算の審議ですので、その補正予算の資料として今出されたこの資料の一覧表といいますか、これを見ると、これは議会提出用の書式ですよね。それで、これは非常にわかりにくい部分があります。私たちが事前にいただいた今回の補正予算に関する資料として、歳入歳出の予算要求書があったのですが、これは非常にわかりやすいです。私も初めて見たのですが、これからのことも含めてなのですが、補正予算あるいは新年度の予算の審議の際に、こういった予算要求書のようなものは

出せるのでしょうか。

(教育部次長) そうですね。どういった内容がより丁寧な説明になるかというところだと思うのですが、当然予算ですので、歳入も含めた形でお知らせすることがより丁寧なやり方だと思います。今後、財政部局等とも協議をしながら、どのような形でお出しできるかということを検討して、よりわかりやすい形で資料を提供させていただきたいと考えております。

(上原委員) 議会に出す書式は、ずっとやっている人はわかると思うのですが、慣れないとなかなかわからない部分があります。また、担当課の方で説明するとしても、相当説明をしないとわからないと思います。今回いただいた予算要求書では、かなりわかりやすいので、こちらの方がより親切だし議論も深まるのではないかと思います。前向きに検討していただけるとのことですので、よろしく願いいたします。

(教育部次長) わかりました。

(和野教育長) 他にございますか。他にないようであれば、原案どおり決定することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

-原案どおり決定-

## 6 協 議

(和野教育長) 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

7 その他
(1) 苫小牧市第2学校給食共同調理場の民間委託（調理等業務）について
(第2学校給食共同調理場長) -苫小牧市第2学校給食共同調理場の民間委託（調理等業務）について説明-
(和野教育長) 質疑に付します。
(上原委員) 3社から応募があったことはわかりました。それで、東洋食品さんは全国的な企業だと思うのですが、他の2社は、社名は無理でしょうから、例えば道内・道外、あるいは苫小牧市内とか、そこら辺がわかれば差し支えない範囲で教えてください。
(第2学校給食共同調理場長) A社・B社につきましても、全国的に展開している企業でございます。ただ、学校給食に特化していないということで、共同調理場ではなく自校式の調理場が多いとか、事業所の調理が多いというようなことで、今回の私どもの提案のように、第1学校給食共同調理場のような1万1千食というような大きな共同調理場をやっている事業者ではなかったということがございました。
(佐藤守委員) 第1学校給食共同調理場の時もそうですが、給食の配送業務というのが、苫小牧市の場合特に大事だと思うのですが、そういった配送業務の方はどのような形になりますか。
(第2学校給食共同調理場長) 配送業務につきましては、それだけで委託業務ということで、苫小牧市内にある藤田荷役さんの方をお願いしております。
(佐藤守委員) 次も同じというか、全体として委託しているということですか。
(第2学校給食共同調理場長) はい、苫小牧市内全部が委託になっております。
(和野教育長) 他にございますか。

(一同「なし」の声)

(和野教育長) それでは、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・15時58分